

移築された先でニシン漁の最盛期を伝える

05

ぎよば けんちく

にしん漁場建築

- 所在地：小樽市祝津3丁目228番地
- 問合せ先：小樽市鯨御殿 (TEL 0134-22-1038/見学には入館料が必要です)
- 休館日：冬季期間中閉館



明治から大正年間にかけて、後志を中心とした日本海沿岸地域はニシン漁で大いににぎわい、繁栄しました。漁の主な労働力は東北地方からの出稼ぎ漁夫であったため、ニシン漁の経営者（親方）は、自身の居宅と漁夫の宿舎を兼ねた「鯨漁場建築」と呼ばれる独特の建築を作り上げていきました。

この建物は、後志地方でも有数の親方であった泊村の田中家が明治30（1897）年に建設した鯨漁場建築のうち、主屋のみを、昭和33（1958）年に現在地に移築したものです。

移築の際に一部規模が縮小されていますが、大規模な切妻造、煙出しを兼ねた天窓、漁夫用と親方用

の2つの玄関を備えた外観や、内部では親方の居住空間と漁夫の空間が土間を挟んで併存し、漁夫用の空間にはネダイ（寝台）が作りつけられているなど、典型的な鯨漁場建築の構成を成しています。

現在、本来の建設地である海岸沿いとは異なる岬の上に設置されていますが、現地の泊村では、崖を背にした入り江の奥に、数棟の蔵、袋溜、^{ふくろま} 広大な干場など、ニシン漁のための一連の施設を伴った一大漁場が展開されていました。

現在は「小樽市鯨御殿」として、ニシン漁にまつわる民具や写真などを展示する資料館として一般公開されています。



【写真】1 にしん漁場建築外観 2 館内の様子 3 ニシン漁で使用した民具の展示